

お薬手帳

病医院で処方箋をもらい、「かかりつけ薬局」で調剤をした時に「お薬手帳」を貰って薬の記録をしたことがあると思います。このお薬手帳は1993年国内で数名が別々の医療機関から抗ウイルス剤と抗がん剤の処方を受け。そのまま服用し死亡したことがきっかけで薬剤師の発案でできたもので、それが認められ全国に広がったものです。

お薬手帳は、ご自身に処方された薬の名前や飲む量、回数などの記録を残すための手帳です。この記録があると、医師、歯科医師や薬剤師が処方箋や調剤で参考にすることができます。また、別々の医療機関から処方された薬が飲み合わせがある場合の発見に有効に働きます。

薬を安心して使えるように、ご自分が使った薬に関して気がついたこともメモしておくこともできます。医師は、薬手帳を基によりあった薬を選ぶことができます。またよく使う市販薬や健康食品のこと、薬や食物のアレルギーの有無や、体調の変化なども記録しておけば、いざという時に役立つ最良の治療記録となりますので大切に作り上げましょう。